

日本の大学生はちよつと違ふね!

総合科学部研究生

◆ 李^イ 知^チ 映^{チョン}



はじめに

日本に来てもう七か月。来たばかりのような気がするけど、あと三か月でお別れだね。光陰矢のごとし。日本に来る前に、私なりに日本の文化や生活などについていろいろ勉強してみた。だけど、実際に来てみたら、微妙に違うことに気づいた。特に、日本の大学生はちよつと違ふね。

みるとみんなコピーした紙をたずさえていた。そうだ、試験が近づいていたんだ。やっぱり日本の学生は勉強しないんだ、と思った。

以前聞いた話では、戦後、日本では教育水準が急速に上昇して、一九九四年の高校進学率は九六・二％で、大学の短大の進学率は四〇・九％、男三八・五％、女四三・四％で、これに対して一九六〇年の大学進学率は、わずか男一五％、女五％だったそうだ。こんなに、個々の人の学歴が高くなるにつれて、みんなが大学を目指して勉強するけど、それは、入ってから続かないようだ。

二つ目の違い、授業中に質問しない

二つ目は、授業中にあまり質問しないし、反応がないことだ。たとえば英語の授業で、日本人学生に、not too long がどういう意味か、と質問が先生からあり、聞いても誰一人答えなかった。私が「短いという意味じゃないですか」と言うと、先生は、「コリアンガールが教えてくれたね」と苦笑いをした。日本人は知っているはずなのに答えな

いのか、日本の大学生はちよつと違ふね。これは、多分、小学生の時から先生の言うことを率直に聞かされているし、自分たちの意見を自由にかわす環境がなかったことに起因していると思う。これをもうちよつと深く考えてみたら、日本人の物の考え方の特徴である、与えられた環境や条件をそのまま肯定的に受け入れることに関連があると思う。

三つ目の違い、学業よりもアルバイト

三つ目には、学業よりもアルバイトを熱心に行うことだ。講義の時刻よりもバイトの時刻を気にしていることなど、お金を最優先に考えていることがわかる。まして、大学院生だとしても、そうするね。日本の大学生はちよつと違ふね。

いくら現世が、物質中心社会だとしても、金銭にばかり気を向けているということは、悲しいことだ。

おわりに

今の教育現場と制度からは、最終的にどの段階で学校を卒業したかという

ことが、その人の社会における地位を決める大きな要因になっている。そのため、個人の学歴が過度に重んじられているから、大学に入学後は、その名に身をゆだね、学業を基にした、自分の内面を見据えた将来のことを忘れていたのではないかと、思う。

時間はあつという間に過ぎるから、大切に使わないとね。

プロフィール

私は、一九九四年十月に交換留学生として韓国から来ました。韓国ではもう大学院生で、専門は日本近代文学です。

日本にきて七か月間、留学生スピーチコンテストで優勝するなど、いい思い出をたくさん作りました。

今年八月に韓国に帰るまで、いろいろ頑張るつもりです。

キャンパス散策



撮影 滝本勇紀 (経済学部三年)

안녕하세요!
안녕하세요!
안녕하세요!